

30th

HATSUKAICHI-SHI

廿日市市市制施行30周年記念誌

幸せを描けるまち廿日市市

◎健康都市宣言

山があり 海がある この自然豊かなまち

はつかいちで 健康に暮らすため

市民一人ひとりの健康づくりに加え

安心して快適に生活ができる環境をつくります

みんなが笑顔で心豊かに生活できる

健康なまちづくりに 市民と行政がともに取り組みます

平成27年4月

◎環境都市宣言

私たちのまち廿日市市は、海や山、川など恵まれた自然をもつまちです。豊かな緑と清らかな水を育む山々。穏やかで美しい瀬戸の海、そこに浮かぶ厳島神社は、悠久の時を越えて現在に至っています。

これらの自然や歴史・文化を守り、次の世代に引き渡すことは、私たちの責務です。

私たち廿日市市民は、自然への思いやりをもち「海と緑と人が育む環境創造都市はつかいち」の実現にむけて取り組むことを、ここに宣言します。

○美しく豊かな自然を愛し、自然と共生した潤いのあるまちをつくります。

○資源とエネルギーを大切にし、健康で安心して暮らせるまちをつくります。

○ふるさとに愛着と誇りをもち、快適で魅力に満ちた住みよいまちをつくります。

○地球に暮らす一員としての自覚をもち、持続可能な循環型のまちをつくります。

○人と自然を思いやる心を育み、環境を守るために自ら行動するまちをつくります。

平成21年4月5日

廿日市市市制施行30周年記念誌

発行年月／平成30年4月 発行／廿日市市
〒738-8501 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号
TEL:0829-20-0001(代表)
<https://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/>
製作／(株)ぎょうせい



市長
眞野 勝弘

廿日市市は、昭和六十三（一九八八）年四月一日に誕生し、今年度三十周年の記念すべき年を迎えました。

この節目を迎えることができたのも、本市に愛着を持ち、日々、市政の発展にお力添えをいただいている市民の皆様方のご尽力の賜物と、心から感謝申し上げます。

振り返りますと、昭和六十三（一九八八）年当時、相次ぐ大型団地の開発により、人口が右肩上がりに増え続け、その後、市役所庁舎・文化センターをはじめ、スポーツセンター、総合健康福祉センターなどの基盤整備も進み、目を見張る勢いでまちが発展してまいりました。

また、二十一世紀になってからは、二度にわたる大合併を経験し、海から山までの豊かな自然、悠久の歴史と伝統、多様な産業・文化に恵まれた、まさに日本の縮図のような「まち」となり、それぞれの地域の魅力や資源を活かしたまちづくりに取り組んでまい



議長
仁井田 和之

市制施行三十周年にあたり、記念誌が発刊されますことに、心からお祝いを申し上げます。

廿日市で市制施行への機運が本格的に高まったのは、昭和六十（一九八五）年の国勢調査で市制施行要件の一つである人口五万人を超えた頃からでありました。

昭和六十一（一九八六）年七月、議会に市制調査特別委員会を設置し、市制に関してさまざまな調査検討が行われ、昭和六十二（一九八七）年九月の議決を経て、昭和六十三（一九八八）年四月、県内十三番目の市として多くの市民の皆様の期待のもと、「廿日市市」が誕生しました。

市制施行後は、昭和六十三（一九八八）年にJR宮内串戸駅、平成元（一九八九）年にJR阿品駅が設置され、平成七（一九九五）年には、廿日市市スポーツセンターサンチェリーが完成し、翌年に、第五十一回国民体育大会「ひろしま国体」柔道競技会の会場

市制施行30周年記念誌発刊に寄せて

輝かしい未来を拓くまちづくり

りました。

今後皆様にも「いつまでも住み続けたい」「住んでみたい」と言っていただけや、現在、まちの新たな成長や持続可能な地域経済の確立に向けた新機能都市開発事業や、市民の皆様の安心な生活を確保する地域医療拠点等整備事業を進めています。

また、宮島口地区に関して、年間四五十万人を超える「宮島」への来島者の賑わいを市域全体に波及させる観光交流拠点となるよう、広島県、地元関係者と連携しながら取り組んでいます。

本市には、古くは市に集まる人や西国街道・津和野街道を行き来する人を起源とする多様な交流の中から培われてきた「市民力」や、長い歴史の中で育まれてきた「地域力」がごいます。

この力を結集して、次の二十年先、三十年先を見据え、輝かしい未来を拓くまちづくりを市民の皆様とともに進めてまいりたいと考えておりますので、これまでと同様、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、記念誌作成にあたり、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

となりました。

また、平成九（一九九七）年には市役所庁舎とはつかいら文化センターが完成するなど、大規模な事業が次々に行われ、都市基盤が整備されていきました。

そして、住民福祉の向上と地域の発展を図るため、平成十五（二〇〇三）年三月の佐伯町、吉和村との、そして平成十七（二〇〇五）年十一月の大野町、宮島町との、二度にわたる合併を行い、市制施行三十周年を迎えた今、廿日市市が人口十一万人を超える都市となったことは、われわれが大いに喜びとするところです。

この間、市議会は、廿日市市の飛躍・発展のため、さまざまな提言を行うとともに、議論を尽くしてまちづくりの課題解決に向け心血を注いでまいりました。

これからも、引き続き、廿日市市により良いまちづくりに向け、市民の負託にこたえるべく邁進してまいります。

結びに、市制施行三十周年を契機に、廿日市市のさらなる発展を祈念しまして、発刊によせる言葉とします。

市民憲章

わたくしたちは、長い歴史と伝統をもつ、豊かな自然に恵まれた廿日市の市民です。

わたくしたちは、このまちに誇りをもち、より豊かなまちをつくるため、この市民憲章を掲げます。

1. 健康で、美しい平和なまちをつくりまします。
2. 教養を深め、文化の香り高いまちをつくりまします。
3. 心のふれあいを大切にし、助けあうまちをつくりまします。
4. 働きがいのある、活力に満ちたまちをつくりまします。
5. 責任を重んじ、力をあわせて住みよいまちをつくりまします。

市名の由来

廿日市という地名の由来は、室町時代中ごろに始まった市だとされます。商人や職人が集まって仮設の市が立ち、人々で賑わううちに常設の店ができ、家並みが形成され、廿日市のまちができていきました。明治二十二（一八八九）年の市制町村制施行のときも、また、昭和三十一年（一九五六）年に廿日市町、平良村、原村、宮内村、地御前村が合併したときも、「廿日市」の名称はそのまま使用され、今日まで住む人に愛され、市の発展とともに歩んできました。



市の木【さくら】



市の花【さつき】

日本を代表する木として広く愛され、親しまれているさくら。誰もが快適に暮らせて、豊かな文化が花開くまち、廿日市市の象徴として市の木に選定しました。

さつきの、年中緑を絶やさない力強さが「自立」を、美しく寄り集まって咲くところから「連帯感」を思わせ、市の花に選定しました。

「幸せを描けるまち廿日市市」を未来へつなぐ

廿日市市のまちづくりの永遠のテーマである、「幸せを描けるまち」を未来の世代へとつなげていくため、三十年前の市制施行に尽力し、廿日市市発展の礎を築いていただいた三名に、当時の思い出を語っていただく座談会を開きました。コーディネーターは、廿日市市総合戦略検討会議の座長を務めた広島修道大学の山川肖美教授にお願いしました。（平成二十九年十二月十八日実施）



廿日市市 市制施行 記念パレード

品格のあるまちへ

山川 ● 私は廿日市市生まれではなく、二十年ほど前に引越してきました。当時私は結婚したばかりで、新居を

決めるためにいろんなまちを回ったのですが、廿日市市を選んだのは住みやすく、これから家族と一緒に暮らしていくのに最適な環境だと思ったからです。暮らし続けるうちに、住み心地の良さは高まっており、その礎にはお三方を始め、多くの方の尽力があつたことを改めて感じております。節目となる三十周年を迎え、今そして、これからの廿日市市の担い手となる人たちに市制施行の歴史を伝えるにはと思い、お話を伺います。まず当時、廿日市町の社会福祉協議会会長で、市制審議会の委員でもいらつしやうた櫻井さんに、市民の立場から、市制施行当時の思いをお伺いします。

櫻井 ● 町から市になると聞いた時、まず頭に浮かんだのはヒューマン・ライツ

といえますか、みんなで「友愛都市」を創ることができるんだということ。廿日市町は、人口が五万人以上で、その中心に官公庁などの施設が揃っているなど、町が市になるための条件はクリアしていたので、市になることは可能だと誰もが感じていました。その上で、文化的で人間性豊かな、品格が感じられるまちづくりをいかに進めることができるかが課題だったと思います。行政サイドの頑張りもあつて、市になってから多くの施設ができ、市域も拡張して現在のような素晴らしい廿日市市ができました。文化などの面でも充実し、トライアスロンやけん玉の世界的な大会を開くことができたのも、市制施行ができたからだと思います。



単独市制への道のり

山川 ● では当時、行政の立場ではどのような未来予想をしていたのかを、山下元市長にお聞きしたいのですが。

山下 ● 高度経済成長期に百万人規模の政令指定都市制度が進められ、広島市がこれに手を上げました。昭和四十六（一九七二）年には「広島圏都市計画区域」が指定され、安佐郡、安芸郡、佐伯郡に合併を呼びかけました。

廿日市町議会でも、昭和五十二（一九七七）年に「広域行政調査特別委員会」を設置し、①広島市との合併、②五日市町や大野町、宮島町を含めた中間都市構想、③単独市制の三つの方向で議論が進められました。そして、廿日市町と広島市の間にある五日市町が広島市と合併するかどうか決定していないことと、大野町や宮島町が競艇収入により財政的に潤っていたため合併に消極的であるという理由から昭和五十三（一九七八）年に単独市制へ進むことが望ましいという中間報告が議会に提案されました。こうして、大きいばかりが良いのではない、これからはコンパクトな自治体の方が暮らしやすいのではないかと

万全の協力態勢で市制施行

山川 ● 当時は、地理的にも経済的にも大きく、豊かな方向が良いという意見があつたと思いますが、そうした中、小さな拠点と地域経済の自立という今、重要とされていることに、昭和六十年代から未来に先駆けて取り組みられてきたわけですね。そうした意識をどのようにして市民の方々と共有していったのか、当時、町職員として交渉にあたつた眞野市長にお話を伺います。

眞野 ● 市制の施行については、当時の中尾町長、半明町長のもと、全職員が一丸となつて、その準備に取り組みました。私自身は、昭和六十二（一九八六）年に設置された市制調査室の室長として、町内の九会場で市制施行についての説明会を開催しました。どの会場もいっぱいになり、市制施行で市民サービスはどのように変わるのかなど、たくさんさんの質問を受けました。昭和

六十二（一九八七）年一月に市制住民アンケート調査を行うと約六割以上が賛成で、どちらでもよいが約一割という結果でした。同年四月に市制準備室が設けられ、十二月には商工会やPTA連合会、体育協会、文化協会などの代表者で組織する「はつかいち21世紀への旅立ち実行委員会」が設立されるなど、万全の協力体制で市制施行に取り組み、昭和六十三（一九八八）年四月一日に県内十三番目の市として廿日市市が誕生しました。翌日の四月二日には、国道二号をJ A広島総合病院から廿日市港まで約二キロメートルにわたり山陽女学園のバトン部の先導で市民約八百人がパレードをして喜びを分かち合いました。

山下 ● 昭和四十年代、廿日市町の一番

の悩みは、水道水の不足でした。それが、昭和五十六（一九八二）年に広島県が魚切ダムを建設したことで解決しました。それに先立つ、昭和五十二（一九七六）年には木材港が開港、翌五十二（一九七七）年には廿日市ニュータウンが完了公告をしました。雇用の場と住居ができ、水道の問題が解決

市域の拡大と一体化

したことが単独市制への出発点になつたと思います。住民の皆さんも協力的で、本当に一体となつてまちづくりを進めることができました。

山川 ● 市制施行後、平成十五（二〇〇三）年三月には佐伯町、吉和村と、同十七（二〇〇五）年十一月には大野町、宮島町と合併し、市域は拡大しました。

山下 ● “平成の大合併”という国をあげての取り組みの一環ではありますが、市制施行の時にきちんとまちづくりを行っていたことがその後の合併をスムーズにしたと思います。選挙の時にスローガンで使わせていただいた、「スキーと海水浴ができるまち」が誕生したのです。また、観光地として世界から注目される世界遺産を有する宮島があることも誇れることですね。

眞野 ● 合併には苦勞もありましたが、広島県の、ひいては日本の縮図のような多様な魅力のある地域を持ち、悠久の歴史、文化、自然がある素晴らしいまちになったと思います。

櫻井 ● 廿日市市を弥山から見下ろすと、

◆出席者プロフィール



眞野勝弘 (しんのかつひろ) 氏

- 昭和61年4月～昭和62年3月
廿日市町市制調査室長
- 昭和62年4月～昭和63年3月
廿日市町市制準備室長
- 昭和63年4月～平成元年3月
廿日市市財政課長
- 平成元年4月～平成11年11月
廿日市市総務部長
- 平成11年12月～平成19年3月
廿日市市助役
- 平成19年4月～平成19年8月
廿日市市副市長
- 平成19年11月～
廿日市市長



山下三郎 (やましたさぶろう) 氏

- 昭和30年4月～昭和31年9月
宮内村議会議員
- 昭和31年9月～昭和49年3月
廿日市町議会議員
- 昭和52年4月～昭和63年3月
廿日市町議会議員
- 昭和60年4月～昭和63年3月
廿日市町議会議長
- 昭和63年4月～平成3年10月
廿日市市議会議員
- 昭和63年4月～平成3年4月
廿日市市議会議長
- 平成3年11月～平成19年11月
廿日市市長



櫻井正弥 (さくらいまさみ) 氏

- 昭和46年12月～平成21年12月
廿日市(町)市民生委員・児童委員
- 昭和59年4月～平成23年5月
廿日市(町)市社会福祉協議会会長
- 昭和61年4月～平成20年3月
廿日市(町)市文化財保護審議会委員
- 昭和61年8月～
市制審議会委員
- 昭和63年4月～平成21年12月
廿日市市民生委員児童委員協議会会長



山川肖美 (やまかわあゆみ) 氏

- 平成19年4月～
広島修道大学人文学部教授
- 平成20年12月～
廿日市市教育委員
- 平成24年1月～
廿日市市男女共同参画懇話会会長
- 平成26年4月～平成30年3月
広島修道大学副学長兼
ひろしま未来協創センター長
- 平成26年6月～平成27年3月
廿日市市教育委員会委員長
- 平成27年4月～
同教育長職務代理
- 平成27年6月～10月
廿日市市総合戦略検討会議座長

拠点として宮島口周辺を整備し、賑わいを市域全体へ波及させていきます。

山下 ●市制施行した昭和六十三(一九八八年)には、浄財によってJ R宮内串戸駅が誕生しました。また、市制二十年を記念して、平成十九(二〇〇七)年にはテレビ番組の公開録画や、大相撲宮島場所を招聘し、トライアスロンや市民合唱祭が市民によってスタートされました。市制三十周年に際しても、市民が一体になれるようなイベントを企画していただきたいですね。

山川 ●廿日市市は、平成二十四(二〇二二)

年に「協働によるまちづくり基本条例」を制定し、住民と一体となったまちづくりをスタートさせています。実際、住民の方々は廿日市市が本当に好きで、若い人と話しても、学校や仕事でいったん市外に出ることがあっても、戻ってきたいという声をよく聞きます。文化ができる上がるには三十年、それが歴史になるのは百年かかるといわれますが、最後にこれからの廿日市市を担う次世代へのメッセージをお願いします。

櫻井 ●市制施行三十周年を迎え、素晴らしいまちができました。若い世代の

力ですます発展させてもらいたいし、そうしてもらわないと困ると思います。

山下 ●市の発展のために、自分が継続的に何かをしたいと思ってもらせるような、住民参加のまちづくりを進めてもらいたいです。また、これからの時代に残り、さらに発展させていくためには、これが廿日市市だと言えるような特色のあるまちにする必要があると思います。

眞野 ●市民の皆さんと一体となって歴史や文化の魅力を発信し、若者もまちづくりに積極的に参加してもらえよう

うにしていきたいですね。廿日市市には、まちづくりの力強い源となる「市民力」や各地域で育まれてきた「地域力」があります。市制施行三十周年を契機として、次の三十年、五十年先を見据え、躍動し未来を拓くまちづくりを進めていかなければなりません。

山川 ●市民憲章に謳われたまちの姿を守りながら、働く場所や子育てができる場所を増やし、次世代へまちの発展をつないでいけたらと思います。本日はありがとうございました。



本当に景色が美しい。海も山も豊かな、県内でも一番の素晴らしいまちだと思います。総合病院や大型ショッピングセンター、文化ホールもできて、広島市に行かなくてもグレードの高い生活を送ることが可能になりました。大学、短大、高校もあり、教育の場が多いのも良いですね。高齢者のふれあいの場も多く、子どもからお年寄りまで住みやすいまちになったと思います。

眞野 ●廿日市市の沿岸部から佐伯や吉和へのアクセスも以前に比べると良くなり、合併して十数年が経ち、ようやく市としての一体感ができてきたと思います。

山川 ●私はお祭りが好きで、廿日市市は祭り事が多く秋は毎週のように出かけているのですが、人出が足りない場合は地域を越えて助け合っており、市としての一体感を感じます。

眞野 ●宮島などは若者が少なく、祭りを運営しにくくなっています。地域を越えて交流・応援しながら、伝承していかねばならないと思いますね。

人口と活力を維持するために

山川 ●日本の人口減少が危惧される中、

廿日市市でも未来を見据えた対策が必要だと思います。誰もが住みたいと思ってもらえるようなまちにするため、市としてはどのような施策を進めておられるか伺います。

眞野 ●現在、市の人口は増加していますが、二〇四〇年には九万人を下回るという予測があります。人口十万人を維持するため、「第六次廿日市市総合計画」のもと、さまざまな取り組みを行っています。市民アンケートでは、①子育てしやすいまち、②アクセスの良いまちへのご要望も多く、出産から子育てまで、トータルに支援する「ネウボラはつかいち」の設置や保育の充実のための公私連携型保育園の整備も進めています。J A 広島総合病院と連携した地域医療拠点等整備事業は、福祉機能・医療機能・まちづくりの機能をもたせて一体的な整備に取り組みます。そして、新たな都市活力創出基盤の整備のための平良・佐方地区での新機能都市開発事業にも取り組んでいます。

また、一体的なまちづくりが進められるよう、中山間地域の交通アクセスをさらに改善するほか、新たな観光交流

ふるさとと皆さんの声援を力に、 人の心を動かせる アーティストを目指します。

◆歌を始めたきっかけは？

中学時代に人前で初めて歌った時に、聞いていた人から「感動した」、「上手」と言われたことが歌手を目指したきっかけになっていると思います。それまでは人前で歌うきっかけがなかったので、自分の歌声で人に感動してもらえと思うていなくて、自分自身も感動しました。

◆廿日市で好きな場所は？

鳥弁が
出てしまい
ます。方言で話すと東京の人から「新鮮でいいね」と言われます。

◆ふるさとを離れてみて感じる廿日市や広島の良いさは？

とにかく自然がたくさんあるところ。中学校時代に通っていた学校は窓から、瀬戸内海が見えるとても景色がきれいなところでした。東京にいると簡単に海は見えないので、自然の大切さを改めて感じました。あとは、地元の人が優しいところですね。広島弁も懐かしく感じます。普段は方言が出ることはあまりないのですが、同郷出身の方に会うと、ついつい広

なんといつても宮島で、帰省するたびに必ず行っています。また、毎年お正月になると速谷神社に初詣に行きます。恒例になっているので、地元の友だちなどたくさんさんの知り合いに会えてうれしいです。

◆花岡さんにとって、ふるさと廿日市とは？

上京するまで自分を育ててくれたまちなので、やはり地元に戻ってくるホツとします。これからは、今ある自然は残しつつ、新しく「廿日市市といえばこれだ」といえるような代表的なものがあるまち

◆市民の皆さんにメッセージをお願いします。

地元でライブをするとき、いつもたくさんさんの応援をしてくださり、本当にありがとうございます。皆さんのあたたかい声援が力になっています。これからも、ひとりでも多くの人に、花岡なつみの歌を届け、少しずつでも人を感動させられるようなアーティストになれるように一生懸命頑張りますので、応援よろしくお願いします。



⇒宮島は、景色もいいし、自然がたくさん残っていて、とても落ち着くところです。悩み事があると、宮島に足を運んで心を落ち着かせます。



◆小学校の頃の地元大野での野球の思い出は？

体を動かすのが好きだったので、小学校一年の時に大野友星（少年野球チーム）に入り、野球を始めました。中学生になると大野シニアに入団しましたが、チームメイトみんな仲が良く、楽しかったです。近くにカープの練習場があるので、栗原健太選手（現・楽天コーチ）にサインをもらいに行ったこともあります。

◆中学時代も全国から注目されていたそうですが、広陵高校を選ばれた理由は？

いろんな高校の監督が中学まで来られたのですが、ほかの監督が技術のことばかり話される中、広陵の中井先生は人の生き方について話され、この人のもとで学べば、野球の技術も人間性も高めることができると思うからです。その時、監督が言われた「男としてまっすぐ正直に生きろ」という言葉は、今も

心の中に響いています。

◆甲子園で打撃記録を次々と塗り替える活躍をされましたが、苦しい時もあったと思います。そんな時は、どのように乗り越えていましたか？

中学時代の友だちは、みんな良い奴らばかりで、いつも勇気や元気をもらっています。思うような結果が出なかった時、「みんな応援している。甲子園で活躍する姿を見せてくれ」と言ってもらったのはうれしかったですね。

◆地元で好きな場所、思い出に残っている場所は？

大頭神社のお祭りにはよく行っていましたし、妹背の滝でもよく遊びました。宮島の花火大会の時は、家から良く見えるので、友だちが遊びに来ていました。食べ物美味しい

のも廿日市市の良いところですね。かきフライとあなご飯が好きです。

◆プロに入るにあたっての意気込みを聞かせてください。

中井先生に社会に出て活躍できるように鍛えていただいたので、人間的な部分での不安はありません。しかし、体力をつけることも含め、技術的にはもっととつと上を目指さなければいけないと思います。とりあえずの目標は、一軍に上がることです。

◆夢を抱いている子どもたちへのメッセージをお願いします。

何ごとも、夢を目指して頑張らなければ叶うものではありません。最初は小さいものでもいいですから、何か具体的な目標を定めて、それに向かって全力で取り組んでいく欲しいですね。



PROFILE

●1999年6月6日生まれ。廿日市市出身。小学1年から少年野球クラブ「大野友星」で野球をはじめ、3年から捕手に転向。中学3年時には軟式野球のチーム「大野シニア」のメンバーとして、広島県でベスト8に入る。広陵高校では1年春からレギュラーとして活躍し、1年夏から背番号「2」。ドラフト会議では広島と中日が1位指名し、抽選で広島が交渉権を獲得。高校生捕手の1回目の入札競合はNPBドラフト史上初。



⇒小田島公園は、小学校や中学校の時に、野球チームの仲間たちと一緒に練習した思い出の場所です。当時の仲間たちには今でも励ましてもらっています。

廿日市市には 一緒に頑張った仲間がいて、 いつも勇気と元気をもらっています。



プロ野球選手

中村 奨成さん

Shosei Nakamura

日本一眺めの良い「ボートレース宮島」で、皆さんに感動を与えるレースをしていきます。

◆ボートレーサーになられたきっかけは？

私は三人姉弟の一番上で、二人弟がいるのですが、下の弟がボートレーサー養成学校に入学し、その卒業記念競走を家族で見に行つて感動したんです。すごいスピード感と迫力あるエンジン音、そして何より選手一人ひとりの必死な姿を見て、かつこいい！と思いました。その頃、市内の保育園で保育士をしていて、その仕事も好きだったんですが、私もボートをやりたいという思いが募り、倍率約四十倍の養成学校を受験したんです。

◆養成学校は

厳しいそうですね。

練習はもちろん、それ以外の時間管理も厳しく、外出も月一回で、携帯での連絡もできません。辛い時もありましたが、先にプロになった弟の手紙に励まされました。今は上の弟もレーサーになつていて、三人で情報交換をしています。

◆それまで、スポーツはされていたんですか？

中学では剣道、高校ではソフトボールをしていて、中国大会にも出場しました。昭北グラウンドや桂公園は、練習で思いついた場所です。でも、ボートとは無縁だったので、みんな驚いていました。

◆今も廿日市市に住まれていますか、地元の良いところは？

佐伯地域にいますが、自然が豊かで、空気がきれい。星空も素晴らしいです。不便だと思つたこともありますが、今は住みやすいところだと感じます。市外の人に見てもらいたいのは、やはり宮島で

◆今後の抱負と市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

ボートレースはスポーツとして見て、も、とても楽しめるものです。スピードと思い切つた試合運びが、私のレーススタイル。一生懸命走つて、見ていて面白いと思つていただければ、ようなレースをしていますので、応援よろしくお願いします。



⇒花火やコンサートなども開かれる、佐伯地域最大の夏のイベント「さいき水まつり」で、鮎のつかみ取りをしたことが、子どもの頃の楽しい思い出です。



ボートレーサー
向井田真紀さん
Maki Mukaida

PROFILE
●1987年10月8日生まれ。廿日市市出身。廿日市高校、鈴峯女子短期大学卒業。保育士を経て、ボートレーサーに。現在、B1級。2017年、ボートレース宮島で開催された「第1回GIIレディースオールスター」にファン投票で選ばれる。弟の佑紀さん、直弥さんもボートレーサー。

◆歌を始めたきっかけは？

物心ついた時から歌手になりたいと思つていて、小学校の頃は地元の夏祭りの歌合戦に出場していました。中学に入る頃にギターを買い、曲を作り始めました。中学の合唱祭のオープニングで歌つたのが、人生初のライブです。高校に入ると、廿日市市の「青少年夢プラン実行委員会」の委員となり、バンドを組んでライブ活動を始め、本格的にプロを目指すようになりました。

◆音楽活動のかたわら、市内の介護施設でも働いておられました。

介護施設にボランティアで歌いに行つた時に誘ってもらい、少しでも誰かの役に立つ仕事がしたいと思い、そこで働き始めました。重度の障がいをもつ子どもたちとも、音楽を通してつながることができ、歌うことへの思いをより強めることができたと思います。この経験があったか

◆平成二十八年四月にメジャーデビューされました。

普段、トレーニングで毎日速谷神社までジョギングをしていて、お参りしていたんです。すると、テレビ局から急きょ連絡があつて、歌のオーディション番組に出演することになりました。グランプリを獲得することができ、その直後、さくらびあ大ホールでのコンサートも成功させられました。ご利益があつたんだと思います。

◆香川さんにとって、ホームである廿日市市はどんなところですか？

自分にとって一番大切な人たちがいるまちです。

◆市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

音楽はあくまで、人の日常を励ますもの。主役は聴いている皆さんの人生や生活だと思っています。これからも、皆さんの暮らしに寄り添うような曲を歌っていききたいです。



PROFILE
●1986年6月30日生まれ。廿日市市出身。宮島工業高校卒業。2016年1月、オーディション番組「歌王2016」にてグランプリを獲得。さくらびあでの凱旋コンサートで成功させる。2016年4月にメジャーデビュー。全国で年間200本ほどのライブを行う。2017年、映画「ケアンズ〜あなたでよかった〜」の主題歌を担当。2018年、自分の中でのベストアルバムという「BGM」をリリース。FMはつかいちの番組「香川裕光のAcousticラジオ」のパーソナリティも務める。

⇒廿日市天満宮は、子どもの頃から二百廿日豊年市民祭などで、よく遊びに行っていました。向かいにある中央市民センターでバンドの練習をしていたこともあって思い出深い場所。「桜日和」という曲のモチーフにもなりました。

一番大切な人たちがいるまち、廿日市市から、全国に音楽を届けていきたい。



シンガーソングライター
香川 裕光さん
Hiromitsu Kagawa

廿日市市の成り立ち。

廿日市市域には、旧石器時代までさかのぼる長い歴史があり、日本史の舞台にも幾度か登場してきました。合併前の歴史の中から、いくつかのエピソードをご紹介します。

厳島神社と平清盛

●廿日市市域には旧石器時代から人が住んでいたとされ、冠山からは安山岩の石器が発掘されています。縄文時代には瀬戸内海沿岸部に人が住みつき、漁や狩りで生活をしていました。伝承によれば、厳島神社は佐伯鞍職（くらもと）が五九三年に創建したとされています。律令時代には古代山陽道の駅が平良と大野に置かれ、速谷神社は安芸国でも最高の社格を誇る神社だったとされます。

●平安時代後期には、平清盛をはじめ、平家一門が厳島神社を深く信仰したため、一二六四年には国宝の「平家納経」が奉納され、一二六八年に社殿が廻廊によってつながる、現在のような壮麗な姿に造営されました。清盛の参詣は記録に残っているだけで十回を超え、後白河法皇や高倉上皇も参詣されています。

厳島合戦と桜尾城

●廿日市という地名が初めて記録に登場するのは、室町時代中期の一四五四年のこと

進軍を妨害するため、町に火が放たれたのです。

●この時、戦いの最前線となった大野に伝えられている歴史の悲話が、「残念さん」で

平清盛像

とです。当時、廿日市ではすでに周辺から物資を集めた定期市が開かれ、商人や職人が居住しており、また厳島神社の藤原姓神主家の居城、桜尾城の城下町としても大いに賑わいました。

●戦国時代になると、藤原家は内義隆に滅ぼされ、その義隆も陶晴賢（すえはるかた）の謀反により自害すると、一時桜尾城や町域は陶氏の支配下となりました。しかし、毛利元就が奇襲戦として名高い「厳島合戦」で晴賢を破ると、毛利氏の領地となり、重臣の桂元澄や四男の穂田（ほいだ）元清らが城主を勤めました。しかし、関ヶ原の合戦で敗れた毛利氏が萩に移ると、桜尾城は廃城されてしまいました。廿日市の洞雲寺には、晴賢や元澄、元清らゆかりの人物の墓碑が建立されています。

長州戦争と残念さん

●江戸時代の廿日市は、西国街道や津和

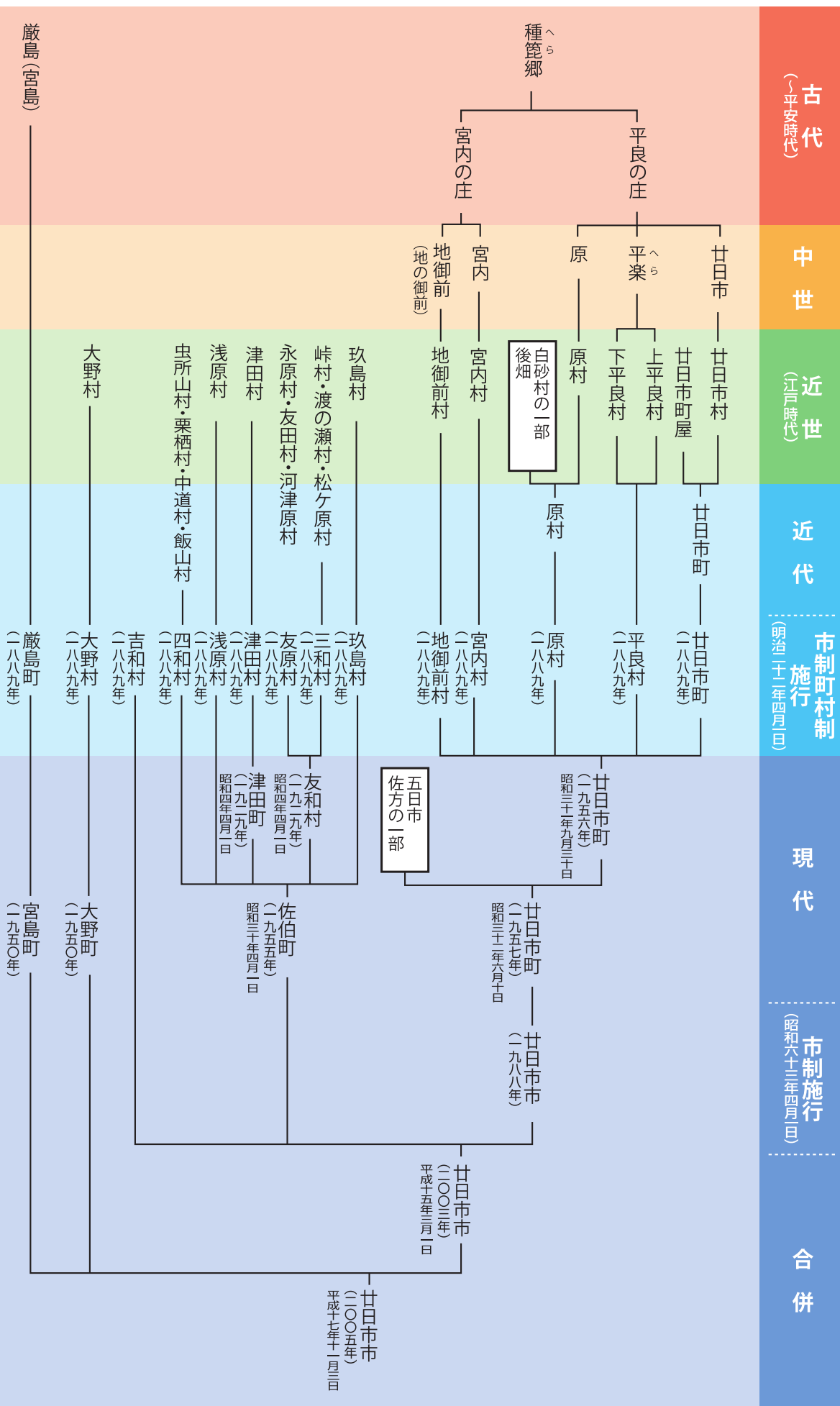
す。和睦を伝えようとした幕府軍の軍使を、長州軍が戦闘員と見誤って狙撃してしまい、軍使は一言「残念！」と叫んで倒れ、亡くなったといわれています。土地の人々が、

その壮烈な戦死を悼み、祠を建てて奉ったのが、今も山陽自動車道大野インターチェンジの近くに残されている「残念さん（残念社）」の由来です。



厳島社頭之図

野街道の宿場町、海上交通の要衝として繁栄しましたが、幕末の動乱に巻き込まれます。一八六六年に長州戦争が起こると、廿日市は幕府軍の陣地となり、長州軍の



若いまちの誕生。

昭和63年
平成4年

江戸時代に広島西部の経済や文化の中心地として栄えた廿日市は、近代になっても佐伯郡役所が置かれ、佐伯郡の中枢としての役割を担ってきました。昭和三十二（一九五七）年には、廿日市、平良、原、宮内、地御前の一町四村が合併して新しい廿日市町が誕生します。その後、木材港や木材団地の整備、国道二号バイパス、山陽自動車道の整備、大規模住宅団地の開発などが相次ぎ、広島都市圏西部地域の拠点都市として、都市機能を高めていきました。

昭和六十（一九八五）年の国勢調査で市制要件の一つである、人口五万人を超え、行政ニーズが高度化、多様化するなかで、都市規模に適應した行政体制の確立が要請されるようになりました。住民の「市制」に対する関心が高まるなか、昭和六十二（一九八七）年度に、市制調査室を設置し、昭和六十二（一九八七）年度に「廿日市町新市建設計画」を策定しました。

市制施行前後は大規模住宅団地が造成されて子どもたちが増え、小・中学校が平成二（一九九〇）年から四（一九九二）年にかけて相次いで開校しました。また、平成元（一九八九）年には、「おおの自然観察の森」と「極楽寺山憩いの森キャンプ場」がオープンしています。平成二（一九九〇）年には、「広島・岩国道路」の廿日市・大竹間が全面開通しました。

西日本初の在来線新設駅として開業。JR広島支社長、半明英夫市長らが出席して、開業式が行われました。続いて、平成元（一九八九）年八月十二日にはJR阿品駅が開業しました。初代駅長の名智洋子さんは、JR西日本初の女性駅長として話題になりました。

「はつかいち桜まつり」始まる

昭和六十三（一九八八）年、市の木に決まったさくらを住吉堤防に植樹しました。「廿日市市と共に大きく育つて、市民の憩いの場になるように」と願って、二百本の苗木を植えました。その願いがかない、平成二（一九九〇）年には、住吉堤防敷に隣接する昭北グラウンドで、「第一回はつかいち桜まつり」が開催され、桜の苗木の無料配布や、かきフライ、桜尾桶寿司、いちごなど特産品の販売、ミニSLの運転などが行われ、多くの人で賑わいました。

まつりは、桜が見頃を迎える毎年四月第一日曜日に開催され、参加者が一体となって春の訪れを祝う廿日市市最大級のイベントに成長しました。メインの舞台では、音楽やダンスのパフォーマンス、キャラクターショーなどが行われ、会場内では、廿日市市を含む地元各団体のメヤ特産品、各種体験コーナーなど多彩なブースが軒を連ねます。



市制施行

昭和六十三（一九八八）年四月一日、廿日市は県内で十三番目の市として、市制を施行しました。このことを記念して、四月一日には、市役所前庭で開市式や市民憲章碑の除幕式、市の花・木の記念植樹、タイムカプセルの埋設式が行われました。

JR新駅、宮内串戸駅・阿品駅開業

廿日市ニュータウン（阿品台）は、廿日市で初めての大規模住宅団地として広島県によって計画され、昭和五十九（一九八四）年に完成しま



JR宮内串戸駅

続いて、二日には阿品台東小學校で記念式典が開かれ、市制施行のイメージソング「緑が空を包む日」が披露されました。また、JA広島総合病院から廿日市港まで、国道二号の約二キロで、市民約八百名が参加したパレードも行われました。

四月二、三日には、中央公民館周辺で「バスデーフエスタ」が開催され、廿日市出身の画家「小林千古展」や3D映画シアター、バザーなどがあり、大いに賑わいました。

した。続いて、昭和六十（一九八五）年には宮園団地、四季が丘団地の造成が始まりました。これにより、団地からの通勤・通学の需要が増大したため、JRの新駅が設けられることになりました。

まず、昭和六十三（一九八八）年四月三日にJR宮内串戸駅が、JR

大型イベント相次ぐ。



第51回国民体育大会「ひろしま国体」

平成5年〜
平成9年

平成五（一九九三）年に、市制施行後初めての「第三次廿日市市総合計画」が策定されました。この頃から市の施設の建設が活発化し、廿日市市スポーツセンター「サンチェリー」、市役所新庁舎、はつかいち文化センター、峰高公園が完成しました。

この当時、広島県内では大規模なスポーツイベントが相次ぎ、平成六（一九九四）年十月に、広島市で開かれた「第十二回アジア競技大会」には、カヌーやアーチェリー、陸上などに廿日市市ゆかりの選手が出場し、地御前がマラソン競技の折り返し地点となりました。同時に開催された「アジア人形劇フェスティバル」には、原の「説教源氏節 眺楽座」も出演しました。平成八（一九九六）年十月に開かれた「ひろしま国体」では、サンチェリーが柔道の会場になり、剣道が大野町・宮島町で、山岳が佐伯町・吉和村で開催されるなど市域のさまざまな場所が競技会場となりました。柔道では、広島県が見事男女総合優勝を飾りました。

平成九（一九九七）年九月には、廿日市の市名の由来となった「廿日の市」が復活しました。同年十一月には「'97まなびメッセ広島 in はつかいち」が開かれ、「でかけよう、自分発見の旅」をテーマに、石井苗子さん、児玉清さんによる記念講演、生涯学習のまちづくり見本市などが行われました。

かいち美術ギャラリー、「はつかいち市民図書館」は四月二十五日に開館。さくらびあでは広島交響楽団によるオープニングコンサートが開かれました。

新庁舎は五月六日から業務を開始し、最初の利用者となった斎藤正子さんには、花束が贈呈されました。行政サービス窓口には、案内用の電光掲示板や公衆電話と連動したファクス送信機など、当時の最新機器が導入されました。庁舎は七階建てで、最上階にはレストランが置かれました。

廿日市市スポーツセンター「サンチェリー」完成

平成七（一九九五）年六月、廿日市市スポーツセンターが完成。三日に開館記念式典を開催し、四日から利用を開始しました。スポーツセンターの愛称は一般から募集し、森田恵美子さんの作品「サンチェリー」に決定しました。サンチェリーはアリーナや温水プール、武道場のほか、トレーニング室や体力測定室、サウナ室などを備えており、利用者一人ひとりの体力に合ったプログラムをコンピュータで管理できる、当時の最先端機能が導入されました。正入り口前にあるブロンズ像「Come across」出会い」は尾道市出身の彫刻家、高橋秀幸氏の作品です。

平成九（一九九七）年には、サンチェリーの横に峰高公園も整備されました。木工のまち廿日市市のシンボルとして、樹齢六百年の巨木を使ったモニュメント「創造のたまご」が設置され、同年の「SDA（サインデザイン）賞」に入選しました。



厳島神社が 世界遺産登録

平成八（一九九六）年十二月、厳島神社が世界遺産に登録されました。厳島神社は、日本独自の文化を伝える優れた建築であり、島全体が



文化的景観をなしている点を高く評価されての登録です。登録された区域は、社殿を中心とする厳島神社と、前面の海および背後の瀬山原始林（天然記念物）を含む区域の四百三十一・二ヘクタールで、全島の約十四パーセントを占める広い範囲にわたっています。これに加えて「厳島全島」および「宮島町字長浜小名切り突角より同町大字大西町水晶山北部突角を見通す線内の海面」から、遺産範囲を除いた地域が、バッファゾーン（緩衝地帯）にされました。厳島神社と同時に、広島市の原爆ドームも世界遺産に登録され、二つの世界遺産を船や電車などで巡る観光ルートに、外国人も含め、多くの人が広島県を訪れるようになりました。

新庁舎、 文化センター完成



新しい市にふさわしい、市民と行政とのコミュニケーションの場として、平成六（一九九四）年に新庁舎の基本設計が完成し、翌七（一九九五）年一月に着工しました。建物は平成九（一九九七）年二月に完成し、併設の文化ホール「さくらびあ」、「はつ

市民文化の芽生え。



第15回国民文化祭 ひろしま2000

平成10年
～
平成14年

廿日市市は平成十（一九九八）年四月二十二日、ニュージ
ーランドのマスタートオン市と姉妹都市提携をしました。同
市との交流は、平成四（一九九二）年に地元企業のニュージ
ーランド工場ができたことをきっかけに始まり、両市とも
木材産業が盛んであることから相互にホームステイを受
け入れるなど、市民レベルでの交流を続けてきました。調
印式は、国内初の試みとして、国際テレビ会議システムを
利用し、両市の市役所を結んで生中継で行われました。
同年五月十六日には、極楽寺山の北側に宿泊・研修施設
「アルカディア・ビレッジ」がオープンしました。

平成十一（一九九九）年四月には、「青少年夢プラン実行
委員会」が設立され、青少年を主体とした文化、芸術、ス
ポーツ、地域おこし活動が活発に行われるようになりました。
平成十二（二〇〇〇）年四月には、日本赤十字広島
看護大学が阿品台に開学しました。同年十一月には、「第
十五回国民文化祭・ひろしま2000」が開かれ、サンチ
エリーで全国の二十六団体を集めて、「吹奏楽の祭典」マ
ーチングバンドとバトントワリング」が開催されました。同
月には、かつて全国一の生産量を誇ったけん玉の製造再開
を祝って、木材利用センターで「作り初め式」が行われま
した。平成十三（二〇〇二）年には、広島はつかいち大橋が
開通しました。

日から本運行を始めました。コミュニティバスとしては、県
内初の本運行となりました。愛称は公募により「さくら
バス」となり、塩田勝三さんが最優秀賞を受賞しました。
車両は乗降しやすく小回りの利く小型低床バスで、ピン
クの地色に白い桜の花をあしらいました。現在、廿日市市
内ではさくらバスに加えて、「おおのハートバス」、「佐伯地
域自主運行バス」という三つの自主運行バス、及び「佐伯さ
くら号」、「吉和さくらバス」の二つのデマンド型乗合交通
が運行しています。

「市民ミュージカル」「市民オペラ」 スタート

平成十二（二〇〇〇）年三月二十六日、さくらびあで「廿
日市市民ミュージカル」の初公演「アッコとオズのなかまた
ち」が上演され、熱のこもった演技に会場から大きな拍手
を受けました。廿日市市民ミュージカルは平成十（一九九
八）年の結成。小学校一年生以上なら誰でも参加でき、
現在も熱心な活動が続いています。

市民合唱団と市民管弦楽団を母体とする「さくらび
あ市民オペラ」も、平成十（一九九八）年に結成され、年一
回開催するオペラ公
演を中心に活動を
続けています。十代
から七十代まで幅広
い年齢層のメンバ
ーが参加し、平成三十
（二〇一八）年二月に
は第二十回公演「オ
ペレッタこうもり」を
成功させました。



「あいプラザ」オープン

平成十四（二〇〇二）年四月一日、
廿日市市総合健康福祉センターが
開館しました。愛称の「あいプラザ」
は、愛情、出会い、ふれ合い、支え合い



など、さまざまな「あい」を表現した
ものです。この施設は、市民の健康
と福祉の向上や、市民の主体的な福
祉活動を促進するための保健・医療・
福祉の拠点として建設されました。
保健センター、高齢者・障がい者アイ
サービスセンター、子育て支援センタ
ー、地域福祉センターなどの複合機
能を持つ「あいプラザ」と、休日や夜
間の初期救急医療の拠点となる「休
日・夜間急患診療所」を合わせた施
設です。研修、講演、検診にも利用
できる二百五十人収容の「多目的ホ
ール」や子どもの遊びの場や子育て
の情報交換の場にもなる「プレイル
ーム」を設置しています。三階まで
吹き抜けのロビーの北側はガラス張
りで新宮中央公園（けん玉公園）が
見渡せ、公園と一体となっています。



廿日市市循環バス 「さくらバス」スタート

廿日市市は、交通結節点や公共
公益施設へのアクセスが不便な地域
の人たちの利便性の向上や交通渋
滞の緩和を図るため、平成十二（二
〇〇〇）年十月から三か月間循環バ
スの実験運行を実施。この結果を受
けて、平成十三（二〇〇二）年五月一

新生廿日市市へ。

平成15年
～
平成19年

この時期に、廿日市市は二度にわたって合併し、市域は大きく拡大しました。まず、平成十五（二〇〇三）年三月一日、佐伯町、吉和村と合併しました。

同年四月には、「廿日市市商工保健会館」（交流プラザ）が開館しました。平成十六（二〇〇四）年二月には、「第一回けん玉まつり」が開かれ、けん玉鳴子を使った踊りなどが披露されました。同年六月には、地元で取れた農産物や加工品を販売する「旬彩市場さくら館」（現JA産直ふれあい市場）がオープン。八月には、極楽寺山で「第一回睡蓮まつり」が開催されました。

平成十七（二〇〇五）年十一月三日には、大野町、宮島町と合併し、現在の市域となりました。

平成十八（二〇〇六）年四月には、協働によるまちづくりを進めるための「市民活動センター」がオープン。同年七月には、広島県無形民俗文化財の人形芝居「説教源氏節 跳楽座」や地域の神楽を伝承し、市民文化向上のための「廿日市市民俗芸能伝承館」が開館しました。

平成十九（二〇〇七）年四月には、文化ホール、図書館、公民館を備えた「廿日市市さいき文化センター」が開館。同年六月には、市制施行二十年の記念式典が行われました。

方キロメートル、人口は十一万九千四人となりました。合併により、海から山までの多彩な地域資源を有する新生廿日市市が誕生しました。合併を記念して、市内の美術館や公共施設を巡る「まちの魅力再発見バスツアー」が実施されました。

「はつかいち縦断みやじま国際パワートライアスロン大会」がスタート

市制施行二十年を迎えた平成十九（二〇〇七）年六月十七日、「はつかいち縦断みやじま国際パワートライアスロン大会2007」が開催されました。トライアスロンは世界遺産の厳島神社の大鳥居からスタートして、宮島口まで二・五キロを泳ぎ、自転車で廿日市、大野、佐伯地域、そして「吉和魅惑の里」まで、高低差八百五十メートルを駆け抜けます。最後は、吉和魅惑の里から「もみのき森林公園」を経て、「ウッドワン美術館」まで、アップダウンの激しい二十キロのコースを走ります。廿日市市を南北に縦断するコースの高低差は九百メートルもあり、国内有数の苛酷なレースです。第一回は二百八十八人が参加し、二百六十二人が完走しました。現在まで十一回行われており、海外からの参加者も多く、わが国を代表するトライアスロン大会へと成長しました。



佐伯町、吉和村と合併

平成十五（二〇〇三）年の廿日市市・佐伯町・吉和村の合併にあたり、同年の二月二十一日には佐伯町、二十三日には吉和村で閉町・閉村記念式典が行われ、佐伯町は四十八年、吉和村は百十四年の歴史に幕

を閉じました。続いて、三月一日、廿日市市は佐伯町、吉和村と合併し、記念式典がさくらびあで行われました。この合併により、市の面積は三百八十八・三平方キロメートル、人口は八万九千七百六十七人となりました。三月三日には佐伯支所と吉和支所の開所式が行われ、地域に密着した住民サービスの提供と、地域の活性化を図りました。同年七月には、合併と市制施行十五周年記念事業として、NHK交響楽団のコンサートがさくらびあで開かれました。

大野町、宮島町と合併

平成十七（二〇〇五）年の大野町・宮島町の合併にあたり、同年の十月二十九日には宮島町の、三十日に



は大野町の閉町式が行われ、両町は百十六年の歴史に幕を閉じました。続いて、十一月三日に廿日市市は大野町、宮島町と合併し、さくらびあで記念式典が行われ、廿日市、宮島、大野各地域の団体が勇壮な太鼓を披露しました。この合併により、市の面積は四百八十九・三六平

自然の継承。



ラムサール条約に登録された宮島



宮島がラムサール条約に登録

平成二十四（二〇二二）年七月三日、宮島の砂浜海岸や塩性湿地、河川など、宮島の一部がラムサール条約に登録されました。ラムサール条約とは、国際的に重要な湿地や、そ

こに生息する動植物の保全などを目的とするもので、広島県内では初めての登録となります。この登録地には、ミヤマトンボという、汽水域でしか生息できず、環境省の絶滅危惧Ⅰ類に分類されているトンボが国内で唯一生息しています。世界遺産の厳島神社に加え、ラムサール条約にも登録されたことで、宮島は自然環境もたいへん貴重な島であることが国内外から認識されました。

廿日市市としても、大切な自然環境を未来へと伝えていく活動を進めています。

「みやじマリン」リニューアルオープン

平成二十（二〇〇八）年から改装工事で休館していた「宮島水族館」

が、平成二十三（二〇一一）年八月一日、リニューアルオープンしました。愛称は千三百六十件の応募から、「みやじマリン」に決まりました。オープン当日は徹夜組が出るほど多くの人が訪れ、一日名誉館長を勤めたタレントで魚類学者のさかなクンや湯崎英彦広島県知事がテープカットを行いました。水族館は、「宮島の干潟」、「瀬戸内のくじら」など



平成
20年
平成
24年

社会環境の変化などにより生じているさまざまな課題に対応して、小・中学校の教職員が連携し、九年間を見通して児童生徒を育てるという視点から教育を行う小中一貫校が注目されています。廿日市市でも平成二十（二〇〇八）年四月に宮島小学校と宮島中学校を統合した宮島学園が誕生しました。続いて、平成二十一（二〇〇九）年には吉和小学校と吉和中学校を統合した吉和学園、同二十七（二〇一五）年には大野西小学校と大野中学校を統合した大野学園が開校。宮島学園がユネスコスクールに認定され、平成二十八（二〇一六）年に「第二回広島県ユネスコESD大賞」を受賞するなどの成果を上げており、廿日市市は全中学校区で多様な形態での小中一貫教育を推進していきます。また、大学と地域社会との交流を図る連携協定も進み、平成十八（二〇〇六）年には県立広島大学、平成二十一（二〇〇九）年には広島修道大学、日本赤十字広島看護大学、同二十四（二〇一二年）には広島工業大学、同二十五（二〇一三年）には山陽女子短期大学と締結しました。

平成二十一（二〇〇九）年には、フランスのモン・サン＝ミッシェルと観光友好都市として提携。同年五月十六日には、エリック・ヴァリエ市長を厳島神社に招いて調印式を行い、互いに観光宣伝や文化交流を進めていくことを約束しました。

平成二十四（二〇二二）年二月には、「廿日市市景観計画」を策定。豊かな自然と歴史や文化により醸成されてきた個性的な景観を、「未来につなぎさらに育む」ための取り組みを本格化させました。

十のゾーンに分かれ、スナメリ、トド、ペンギン、カワウソなどのプールがあり、アシカのライブショーも楽しめます。色鮮やかな魚たちが泳ぐ「ゆつたり水槽」は、水量三百五十トンにも及びます。リニューアル後は、毎年多くの人たちが訪れ、平成二十八（二〇一六）年八月には早くも入館者数三百万人を達成しました。

「協働によるまちづくり基本条例」制定

平成二十四（二〇二二）年四月一日、「協働によるまちづくり基本条例」が施行されました。この条例は市民主体のまちづくりを多様な主体の協働により進めていくための基本的ルールを定めたもので、平成二十二（二〇一〇）年に、市民三千人で構成する市民委員会に市職員も加わって条例素案を作成。素案をもとに、条例原案を作成し、平成二十三（二〇一一）年十一月に市長へ提言しました。その後、平成二十四（二〇二二）年一月から三月にかけて、広くパブリックコメント（意見募集）を行い、その意見を反映させた条例案が同年三月の市議会でき可決され、施行の運びとなりました。今後この条例を基本に、「魅力あるまち」、「笑顔あふれるまち」、「つながりのあるまち」、「安心して暮らせるまち」、「元気なまち」を目標として、まちづくりを進めていきます。



世界との交流。



平成二十六年（二〇一四）年に「第一回けん玉ワールドカップ廿日市」、同二十八年（二〇一六）年に「ASTCアジアトライアスロン選手権2016／廿日市」と、近年、廿日市で相次いで国際的なイベントや競技会が開催されています。

けん玉ワールドカップ廿日市開催を契機に平成二十六年（二〇一四）年四月には、廿日市駅通り商店会が「けん玉商店街」という愛称に改め、店ごとにけん玉をイメージしたメニューや商品を用意するなど、けん玉を使った地域おこしを始めたことが評価され、平成二十八（二〇一六）年五月、経済産業省の「はばたく商店街三十選」に選ばれました。また、宮島口商店会も回遊型マルシェイベントの開催などにより、「宮島への通過点」というイメージを変える取り組みが評価され、平成三十（二〇一八）年三月に同賞に選ばれました。

宮島の年間来島者数が過去最多を更新する中、外国人観光客も増え続けており、国際的観光地にふさわしい誘客や受け入れ環境の整備に取り組んでいます。

教育面でも成果が上がり、平成二十三（二〇一一）年からほぼ毎年、各小・中学校区の地域支援本部が文部科学大臣表彰を受け、同二十六（二〇一四）年には、宮園小学校がビオトープ日本生態系協会会長賞を受賞しています。

平成二十七（二〇一五）年には、「廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が、同二十八（二〇一六）年には「挑戦！豊かさで活力あるまちをつかちち〜夢と希望をもって世界へ〜」を将来像に「第六次廿日市市総合計画」がスタートし、未来へ向けた取り組みも本格化しました。

大会「ASTCアジアトライアスロン選手権2016／廿日市」が開催されました。リオデジャネイロオリンピックの代表を決めるエリートをはじめ、東京オリンピックを視野に入れたU23、ジュニア、リレー、障がいのある人のパラトライアスロンなど六種目が行われ、アジアの加盟十八か国から約千人の選手と大会役員が参加し、延べ約十一万六千人の観客を迎えて熱戦を繰り広げました。市内の小学校十七校がそれぞれ応援団を決め、各国の言葉やモチーフを描いた応援旗を作成したほか、地元の中・高・大学生がボランティア参加し、大会を盛り上げました。

MOC（メキシコオリンピックチーム）の合宿受け入れ決定

「2020東京オリンピック・パラリンピック」に向けて、平成二十九（二〇一七）年五月二十五日に広島県とメキシコオリンピック委員会（MOC）が基本協定を締結し、県内十市町で事前合宿を行うことを決定しました。廿日市市は、サンチェリーを拠点として、柔道、空手、バスケ、トボールの三競技を受け入れることになりました。当日、サンチェリーの視察後に行われた協定締結記念式典では、メキシコオリンピック委員会へ

廿日市市の魅力を熱心にPRしました。今後、メキシコチームの皆さんが安心して練習に取り組み、最高の成績を残せるよう、サポート体制を整えるとともに、市民の皆さんと文化的な交流がもてるよう、さまざまな交流事業を行っていく予定です。



「けん玉ワールドカップ廿日市」スタート

廿日市市は、現在のけん玉の原型「日月ボール」の大量生産を始めた「けん玉発祥の地」とされています。世界に広まったけん玉のプレイヤー

が集い、最高の技を競い合い、けん玉を通じた国際交流を図るイベント「第一回けん玉ワールドカップ廿日市」が、平成二十六（二〇一四）年七月十二・十三日、あいブラザと新宮中央公園（けん玉公園）を舞台として開催されました。第一回大会は、日本やアメリカ、カナダなど十の国と地域から百七人が参加し、来場者も延べ三万八千人を数えました。アメリカから参加したボンズ・アトロン選手が、初代王者を獲得しています。

大会は、その後も毎年開催され、国際的な大会として定着。平成二十九（二〇一七）年の第四回大会はサンチェリーで開催され、海外からの百五人を含む三百八十七人の参加があり、名古屋市の金田奏さんが日本人として初めて王者になりました。



「ASTCアジアトライアスロン選手権2016／廿日市」を開催

平成二十八（二〇一六）年四月二十九日から五月二日までの三日間、廿日市木材港周辺で、スポーツ国際

比較で知る廿日市市

廿日市市は広島県西部に位置し、海と山を擁する自然豊かな地域です。また、日本三景・安芸の宮島を訪れる人が年間四百五十万人を超える観光地としても有名です。

廿日市市は主に五つの地域からなり、それぞれ海・街・山としての特色があります。



人口

人口は約十二万人で広島市のほぼ十分の一です。
二度の合併（廿日市・佐伯・吉和・大野・宮島）以来、人口はほぼ横ばいとなっています。

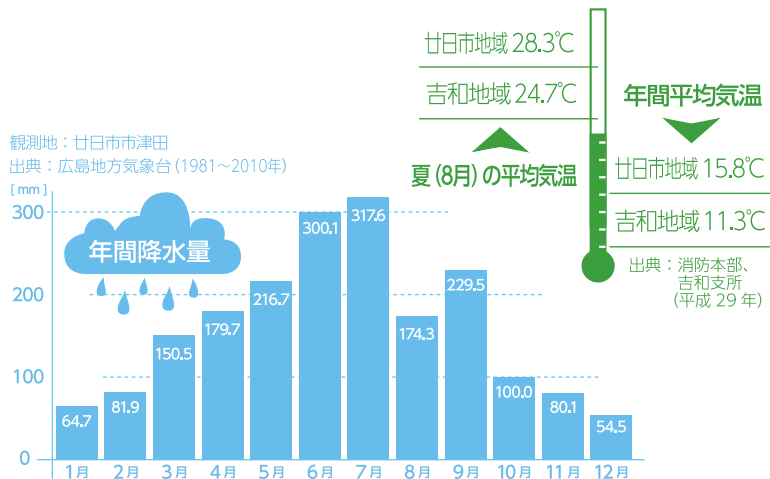
114,906人
全国 249 位 / 1,741 自治体

1,194,034人
全国 10 位 / 1,741 自治体

出典：平成 27 年国勢調査

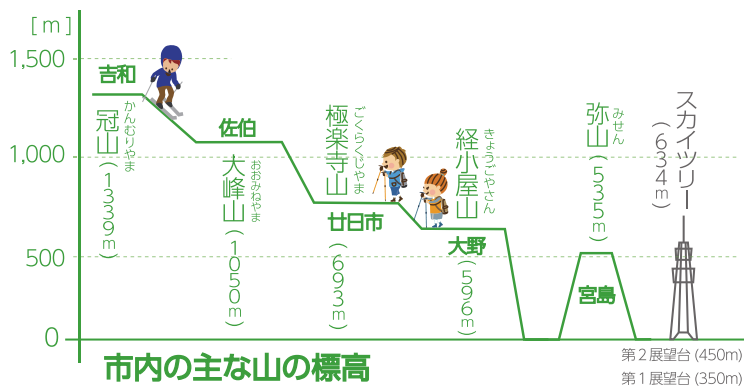
気候

沿岸部は瀬戸内特有の温暖な気候です。
山間部の吉和地域は日本海側気候に属し、沿岸部に比べ平均気温が約五度も低く、豪雪地帯となっており、スキー場もあります。



標高

市内の山々は弥山をはじめ登山道が整備されており、登山客に人気があります。特に冠山は県内第二位の標高があり、太田川の源流として、林野庁から水源の森百選に選定されるなど、広島の水を支えています。



海から山まで広がる廿日市市

廿日市市の観光資源としては、世界遺産である厳島神社を有する宮島があることが最大の特徴であり、国内外から多くの観光客を集めている観光地として認知されています。本土側の沿岸部にはかつての西国街道の面影を残す社寺などの歴史文化資源があり、内陸の田園地域には複数のスポーツ施設があります。

また、中国山地側には冬期に九州方面からも集客があるスキー場があり、さらにもみのき森林公園などの森林レクリエーション資源が充実しています。温泉施設としては、瀬戸内海に面する宮浜温泉をはじめとして、内陸から中国山地側にかけても複数の温泉施設があります。



- 凡 例
- 高速道路
 - 国道
 - 幹線道路
 - 公的宿泊施設
 - 温泉
 - キャンプ場
 - スキー場
 - ゴルフ場
 - 紅葉の名所
 - 道の駅・物産館
 - 神社
 - 仏閣
 - その他

一年中楽しみがいっぱい！

行事

四季の宴、挑戦の舞台 〜華やかな祭りと行事〜

廿日市市では、平安時代から続く伝統行事から、市民の手づくりイベントまで、四季折々にさまざまな行事が行われています。
近年は、大規模なスポーツの大会も始まり、全国や世界からトップを目指して、たくさんのプレイヤーが廿日市市に集っています。

宮島水中花火大会

水中尺玉の多さが特徴
の花火大会

約五千発が打ち上げられる広島県を代表する花火大会。中でも見ものは、百発の水中尺玉で、花火船から海中に投げ込まれて大音響とともに炸裂し、世界遺産の厳島神社の社殿や朱の大鳥居を幻想的に浮かび上がらせます。
毎年八月開催。



はつかいち桜まつり

参加者が一体となって
春の訪れを祝う

桜の名所、住吉堤防敷に隣接する昭北グラウンドをメイン会場に行われる祭り。二つのステージや当地グルメなどが食べられる出店広場、各種体験コーナーなどが会場を盛り上げます。堤防敷のぼんぼり点灯期間には夜桜を楽しむことができます。
毎年四月
第一日曜日開催。



はつかいち縦断みやじま国際パワートライアスロン大会

廿日市の海から山へ
駆け抜けるレース

高低差九百メートルにも及ぶ国内でも有数の苛酷なレース。厳島神社の大鳥居からスタートして廿日市、大野、佐伯地域を通過して、吉和のウッドワン美術館までアップダウンの激しいコースを走ります。
制限時間は七時間で、合計七十七、五キロのコースを競います。世界遺産をスタートし、緑豊かな中山間地を走り抜くコースは、市民の応援の熱さも含めて、国内外のアスリートの憧れとなっています。
毎年六月下旬または七月月上旬開催。



宮島かき祭り・ 大野かきフェスティバル

多彩なかき料理を
旬の時期に堪能

宮島かき祭りは、宮島桟橋前広場で行われる広島県内で最初に始まったかき祭りで、かきの土手鍋、かき雑炊などが格安で味わえるほか、ステージでは歌や和太鼓などが花を添えます。
毎年一月第二土・日曜日開催。
大野かきフェスティバルは、ポーターレース宮島で行われ、かき料理の数量限定の無料提供や販売のほか、地域特産品コーナー、ステージイベントや抽選会などが楽しめます。
毎年一月第二日曜日開催。



けん玉ワールドカップ

世界のけん玉プレイヤーが
技を競う

大正時代にけん玉の大量生産が始まった「けん玉発祥の地・廿日市」で平成二十六（二〇一四）年にスタート。世界中のけん玉プレイヤーがけん玉の聖地に集い、最高の技を競い合い、けん玉を通じて交流する世界最大規模のけん玉イベント。サンチェリーなどで行われ、平成二十九（二〇一七）年は、十四の国と地域から三百八十七名が参加し、五万人以上の観客が集まりました。
毎年七月下旬開催。



まだまだあります 廿日市市の 華やかな 祭りと行事



はつかいち木工まつり
木材利用センターで行われ、けん玉製造の見学や木工体験が楽しめます。
毎年5月下旬開催。



大野みんなのまつり
小田島公園で行われる宮エオブジェ、ステージ、子ども商店街など盛りだくさんの祭り。毎年6月開催。



管絃祭
厳島神社および摂社で行われる、管絃を奏しながら御座船が海を渡る、平安時代に始まったとされる祭典。
毎年旧暦6月17日開催。



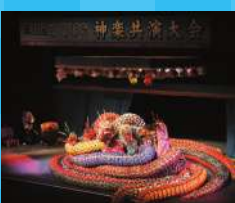
二百廿日豊年市民祭
廿日市天満宮と商店街で行う江戸時代から続く伝統行事。露店が軒を連ね、俄みこしや和太鼓演奏なども。
毎年9月第2土曜日開催。



吉和おさんぽギャラリー
マップを片手に自由に巡る、吉和地域で行われる「自宅開放型」ギャラリー。毎年10月開催。



宮島お砂焼まつり
宮島お砂焼の陶器市やお菓子のコーナーなどの催しが宮島口で行われます。毎年10月開催。



神楽
廿日市市は神楽が盛んで、多数の団体が活動しており、市内の各地域で毎年大会が開かれます。



佐北駅伝大会
今年で67回を迎える、佐伯地域一帯で開かれる伝統ある駅伝大会。
毎年12月上旬開催。



吉和おさんぽまつり
吉和グラウンドで約20メートルのどんどに火を点けて、1年間の無病息災を祈ります。毎年1月開催。



甘日市駅

木をふんだんに使った駅舎

明治三十（一九〇七）年に開業した、百二十年の歴史を誇る駅。平成二十七（二〇一五）年十月、「木のまち」廿日市市の玄関口にふさわしい、木をふんだんに使った明るい駅舎に生まれ変わりました。改札口が二階部分にある橋上駅舎で、北口と南口が自由通路でつながっています。あわせて、ロータリーを備えた駅前広場や広電廿日市駅とつながる自動車道路などの整備が行われました。廿日市市には、この駅を含めJRの六つの駅があり、大変利便性が高いまちになっています。



厳島神社

世界から観光客が訪れる世界遺産

海上に立ち並ぶ社殿群と、弥山など背後の大自然と一体となった優れた景観から、平成八（一九九六）年、世界遺産に登録されました。六世紀後半の創建とされ、海上交通の守護神とされる三女神を祀っています。自身の重みで海に立つ大鳥居のほか、平清盛が造営した寝殿造りの様式を伝える社殿などがあり、世界中から観光客が訪れます。管絃祭や鎮火祭、桃花祭御神能など、四季折々の行事も見逃せません。

施設

まちの賑わい、暮らしの輝き
人が集う交流の舞台がある

海から山まで多彩な自然に恵まれた廿日市市には、それを生かした公園やレジャー施設がたくさんあります。自然と一体となった独創的な建築で知られる厳島神社には、海外からもたくさんの方が訪れます。



宮島水族館（みやじマリン）

三五〇種の生きものがみられるイベント満載の水族館

平成二十九（二〇一七）年に開業五十周年を迎えた、宮島の景観に配慮した和風建築の水族館。「瀬戸内海まるごと」をコンセプトに三五〇種万三千点以上の生きものを展示し、本館では十のゾーンで瀬戸内海のクジラ「スナメリ」などを中心に神秘的な世界を紹介。海獣エリアではペンギンをはじめトドやアザラシ、コツメカワウソなど愛らしい動物に会うことができます。ライブプールでは、アシカライブを毎日行っています。ぬいぐるみなど、オリジナルグッズを販売するミュージアムショップもあります。



もみのき森林公園

森林浴の森一〇〇選に選ばれた大自然の県立公園

標高七百五十〜千七メートルに位置する、大自然に囲まれた県立公園。モミの木が点在する景観が特徴で、昭和六十一（一九八六）年の「森林浴の森百選」にも選ばれました。宿泊施設を中心にバーベキュー広場や、空中散歩が楽しめる中国地方初となるフォレストアドベンチャーなどが整備されています。園内の芝広場では、冬場はスキーやソリ遊びも楽しめるほか、野鳥観察会、キノコ狩りと料理教室、スノーシュー体験会など一年を通してイベントが充実しています。



はつかいち文化ホール さくらびあ

廿日市市の市民文化活動の拠点

市民の文化の拠点と呼ぶにふさわしい、市庁舎と隣接した複合施設。コンサートや演劇、講演会などに使用できる千九百五十席の大ホールと二百九十六席の小ホール（車椅子席と親子席完備）のほか、アップライトピアノを備えたりハーサル室や練習室などがあります。併設されている「はつかいち美術ギャラリー」では、ユニークな展覧会や企画展を開催しています。



まだまだあります
廿日市市の人が集う交流の舞台



めがひらスキー場
総延長5,800メートルのビッグスケールで、初心者から上級者まで満足できるスキー場。



吉和魅惑の里
オートキャンプ場、温泉、ケビン、RVパークなどがある大自然のリゾート・ランド。



MRC乗馬クラブ
冠高原に位置する乗馬クラブで、体験コースもあり、初心者でも気軽に楽しめます。



佐伯国際アーチェリーランド
2種類のコースを楽しむ。中四国地方で唯一のフィールドアーチェリースポット。



佐伯総合スポーツ公園
広い敷地内にたくさんのスポーツ施設があり、毎年ウエスタンリーグなども開催しています。



岩倉ファームパーク
小瀬川の清流と森林に囲まれた、家族やグループで楽しめるオートキャンプ場。



おおの自然観察の森
天然記念物（県指定）ベニマンサクの湖の周辺に自然散策路などがあり、鳥や植物の観察が楽しめます。



宮浜温泉
宮島を望む温泉郷として親しまれ、毎年夏に行われる「まくら投げ世界選手権大会」でも知られています。



宮島包ヶ浦自然公園
700メートルに及ぶ自然海岸の海水浴場やキャンプ場などがあり、滞在型アウトドアが楽しめます。

地域資源

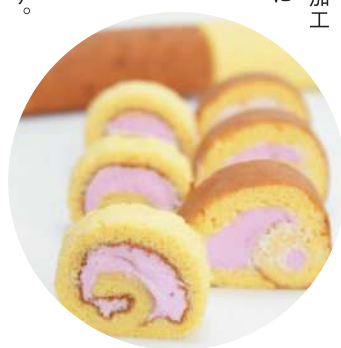
風土の恵み、伝統の心 〜地域が育んだ廿日市市の宝〜

地域の人たちのたゆまざる努力と創意工夫により、果物や野菜、魚介類などたくさんの特産品が生まれました。また、西中国山地の木材集積地と西国街道の宿場町として繁栄を続けた廿日市市には、伝統工芸や伝統芸能が多く残されており、若い世代へと受け継がれています。

はつかいちご

**甘味と酸味の
絶妙なバランスが特徴**

廿日市地域では、温暖な気候を活かして昭和二十四（一九四九）年から加工用いちごを栽培しており、「平良いちご」として独自の産地を築いていました。現在は市内で獲れるいちごを「はつかいちご」としてブランドینگし、生産量の増加や加工品の開発などに取り組んでいます。定番のジャムはもちろん、「いちごタルト」「いちご大福」などの多彩なスイーツがあります。



さいき大長なす

柔らかく食べごたえのある大長なす

柔らかい肉質が特徴の、三十センチを超す大きなナス。昭和四十九（一九七四）年に佐伯地域で栽培が始まり、「ふるさと一品運動」で生産が強化されました。地元佐伯高等学校の生徒が「なすレーヌ」というマドレーヌを考案し、地元のお店が製造・販売しています。



わさび

中国山地の湧水の恵み

冠山や十方山の湧き水を利用して栽培された、吉和地域を代表する特産品。清水や水温など厳しい条件が要求される植物だけに、自然に恵まれた吉和地域ならではの、みずみずしい味わいがあります。わさびの葉を醤油漬けした特産品の「わさび葉漬」のほか、「わさびソフト」や「わさび丼」など、わさび好きにはたまらないユニークなグルメもたくさん揃っています。



説教源氏節 眺楽座

明治時代から伝わる人形芝居

広島県無形民俗文化財に指定されている人形芝居。江戸時代後期に名古屋で生まれた音曲がルーツで、明治時代に原地区に伝わり、舞台装置と人形を製作する中で、独自の舞台装置を工夫するなど、舞台芸術として発展させてきました。現在伝承しているのは、廿日市市を含め全国でも二カ所のみです。原地域には、公演や練習を行う「民俗芸能伝承館」もあり、地元では「でこ芝居」と呼ばれ、親しまれています。



ほうれん草
標高が高く冷涼な気候の佐伯・吉和地域で作られ、新規農業経営者の研修事業も行っています。



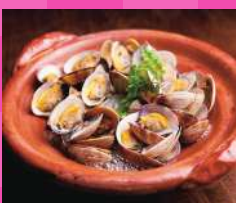
広島サーモン
佐伯地域の万古溪で育てられたニジマスの稚魚が、大崎上島の海でブランド魚に育てられます。



切りバラ
廿日市地域は、県内でも出荷量が多く生産の盛んな地域です。百種類以上のバラを栽培しています。



地御前かき
広島かきの中でも粒が大きく、味の良い高品質なかきとして有名です。



大野あさり
手掘りで収穫される大野地域の特産品。砂が少なく食べやすいのが特徴で、コンのある風味を楽しめます。



あなご飯
大野瀬戸であなごがよく獲れたことから宮島の味の代表格となった郷土料理。駅弁としても人気です。



もみじ饅頭
広島県を代表する銘菓。定番のこしあんのほか、クリームやチーズなどバリエーションも豊富。



宮島お砂焼
厳島神社境内の砂を混ぜて焼いた縁起物。窯元で陶芸・絵付け体験することもできます。



舞楽
奈良時代に伝来した舞楽を平清盛が四天王寺から伝え、20曲以上が厳島神社で受け継がれています。

まだまだあります
廿日市市の
地域が育んだ
廿日市の宝

私の廿日市市・私の夢

市制施行30周年を記念して、市民の皆さんに
廿日市市の好きなところと自分の夢を語って
いただきました。



市制施行30周年
記念ロゴマーク



廿日市市は桜の名所です。その桜を8枚つなげてデザインしています。8という数字は繁栄を意味します。市がさらに発展し市民の皆さんが手を取り合って和になり協力するイメージを表現しました。桜の下図は市章と太陽、瀬戸内海に浮かぶ厳島神社の大鳥居を描いています。(広島県立宮島工業高等学校 インテリア科デザイン)

市章



廿日市市のかしら文字「廿」と「日」を図案化したもので、「円滑」と「融和」を図り、市の発展と躍進を象徴しています。(昭和44年 7月25日制定)

